校長研修だより８６

サラリーマン金太郎

２０２２・１２・１４　重枝 一郎

私は，マンガが好きだ。よく読む。しかし，一昔前のマンガである。小さい頃の私の道徳心は，マンガから影響を受けていたように思う。思いやりや感謝の心，忍耐などいろんなマンガから影響を受け，自分なりの美学をもつことができたように思う。

タイトルの「サラリーマン金太郎」という本宮ひろ志氏のマンガは痛快なヒューマンドラマである。

こんなシーンがある。

サラリーマンである金太郎が，あるプロジェクトに取り組んでいる。思うようにプロジェクトが進まないとき，おそらく相手にされないであろう相手会社社長に会いに行く。自宅まで行き，半ば強引に会うことで相手はとても憤慨する。それでも一生懸命自分の想い，考えを伝える。結局，金太郎は追い返されるのだが，その様子の一部始終を見ていたその会社社長の娘さんが，父親に話すシーンがある。

「私は認めたいな。私はお父さんのおかげで会社に入ったけど，今の若いサラリーマンってどうしようもないわよ」

「結婚の相手なんかに全然考えられないわ。だって，プライドだけは変に高くて，大学出て会社に入った時点で人生のゴールインみたいな感じなんだから」

「上から言われたことを言われた通りにこなし，自分の部署が赤字でもまるで焦らない。それでも会社は給料くれるもんだと思っちゃってるのよ」

「独創的なことなんか考えもつかないんだから。ましてや自分から発想して行動を起こそうなんて微塵もないわ」

「（父）さっきの男は違うと言うのか？」

「立派じゃない。自分の思いつきでお父さんに会いに来る勇気，本当に仕事に対して責任を感じている証拠よ」

「私社会人になってはっきりわかったわ。学生時代の頭の良さって吸収する頭の良さよ。つまり覚えることだわ。社会人になったらその正反対。出す頭の良さこそが大事なの。それは行動であり，まっ白から何かを生み出す創作能力のようなことよ。それがわかっている人がいなさすぎるわ」

「（父）ちょっと出かけてくる」・・・

ここからこの社長が協力し，プロジェクトが少しずつ進でいくことになる。もちろんマンガの話である。

話は変わるが，キャリア教育の授業で，本校も先週「夢授業」のコーチの方々に来ていただき生徒と交流してもらっている。いろんな職業人が参加している。時々，教師の中に「こんな特殊な職業を選ぶ生徒はいないだろう。来てもらって意味あるのかな」と言う人がいる。実は，私もこのコーチの方々プラス私（学校の先生という職種）で他校から呼ばれることもある。確かにいろんな職業人がいる。私は，どんな職業というのは別にどうでもいいと思っている。その大人が，どんな生き方，考え方，あり方なのかを生徒に感じてもらうことが大切だと思っている。キラキラした大人を見ればいいと思っている。教育講演会等でいつも言っているが「これからは Doing より Being」。自分はどうありたいかをこのような「夢授業」からも「マンガ」からも，出会うすべての「ひと・もの・こと」から考えていくことが大切だと思う。